

23rd 全国曹洞宗青年会

sousei

193
2021.5

特集①

僧侶とジェンダー

仏教思想研究家・植木雅俊氏インタビュー

特集②

「過疎」と向き合う最終回

～第23期会長・原知昭×次期会長・山田俊哉 対談～

- ・東日本大震災慰靈復興祈願オンライン法要
- ・全曹青 & いつも曹青協働事業 YouTube 動画「ASMR 精進料理」紹介
- ・大本山總持寺開創700周年記念事業延期のお知らせ





植木 雅俊
うえ き まさ とし

はじめ
仏教思想研究家。仏教学者の中村元氏のもとでインド思想・仏教思想・サンスクリット語を学ぶ。『梵漢和対照・現代語訳 法華経』で毎日出版文化賞、『梵漢和対照・現代語訳 練摩経』でパピルス賞を受賞。サンスクリットの原典を学ぶことで、改竄・操作がなされる以前の經典について研究を重ねられている。

特集 「僧侶とジェンダー」

植木雅俊氏インタビュー「法華経の平等思想」

*「ジェンダー」とは、歴史的・社会的・文化的に形成された性差のことです。

「僧侶とジェンダー」はあまり語られる機会がありませんが、

「平等」について考えるためには重要な課題です。

お釈迦様はその教えの中で、女性をどのように捉えておられたのでしょうか。原始仏典に通じる、サンスクリット語版『法華経』の日本語訳で有名な植木雅俊先生にお話を伺いました。

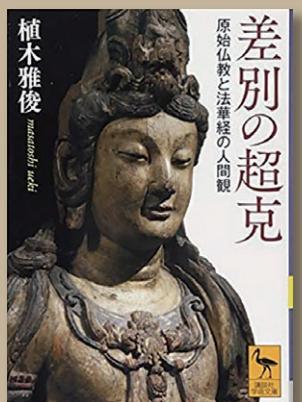
—最初に、女性の出家についてお釈迦様がどのように考えておられたか教えてください。

植木雅俊氏（以下、植木氏）／当初、お釈迦様は女性の出家を許されませんでした。なぜかというと、出家とは家を出ることですから、野宿するわけですね。当時のインドには虎とかライオン、あるいは象とかがたくさんいましたから、危険なのです。お釈迦様には「出家という過酷な経験までさせて女性に修行させるのは酷だ」という考えがつたのではないかでしょう。けれども、お釈迦様は女性も悟りを得られるとしています。私が現代語訳した原始仏典の『テーリー・ガータ』には、「私はブッダの教えをなしとげました」と女性たちが誇りに満ちて綴っています。

『差別の超克』 (講談社学術文庫)

お茶の水女子大学に提出された博士論文を出版したもの。

今回のインタビューはこの本の内容を中心に行われました。

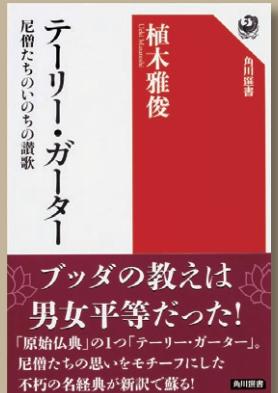


—そのように女性を迎えていた教団が、時代が下るにつれて「女性は悟りを得ることができない」(いわゆる「女入五障」の考え方)と主張するようになります。

植木氏／根本的な理由としては、当時のインド社会全体が女性に対して極めて差別的だったからです。仏教教団の歴史で申しますと、釈尊滅後、百年を経てガンダーラを含む西北インドに現

『テーリー・ガーター』 (角川選書)

「お釈迦様は女性の修行について、どう捉えていたか」という質問に対して、何度もこの本を引き合いに出しておられた。尼僧たちのお釈迦様の教えに対する感動を綴った手記詩集。



にされている。お釈迦様は人間を差別するためには仏教を説いたのだろうか」。そんな声なき声が、次第に一つの声となつて形を取るに至つたのでしよう。

——お釈迦様はどのようなきっかけで女性の出家を許されたのでしょうか。

ねたアーナンダが、代わりにお釈迦様に「女性たちを出家させて下さい」と頼むのです。その時のアーナンダの話の運び方は注目に値します。許しを与えるようとしないお釈迦様に対し、「では、女性は阿羅漢（悟り）に至れないのでしょうか」と尋ねました。お釈迦様は女性の出家については否定的だけれども、悟りはいかなる人にとっても平等だと考えておられますから、「女性も阿羅漢に至れる」とお答えになります。「それなら良いじゃないですか」ということで、アーナンダに説得されてゴータミーたちの出家が許されたのです。

された説。一切有部がその考えを主張し始めた。男性出家者中心の權威主義的な教団だつたのです。例えば、中国、日本に伝わつたお釈迦様の十大弟子は男性出家者ばかりですが、スリランカに伝えられた經典には女性出家者・在家男性・在家女性のそれぞれに代表的な仏弟子たちの名前が記録されています。女性の智慧第一も、説法第一もいたのです。『テーリー・ガーター』に解脱した女性たちの姿が生き生きと描かれています。それなのに、中国にも、日本にも伝わつていません。それは、

—そして、いわゆる上座部仏教に対して、それを批判する形で大乗仏教の運動が始まります。

植木氏／大乗仏教興起のきつかけとしては、権威主義的な上座部仏教の在り方への素朴な疑問があつたのだと思います。紀元前後、お釈迦様が亡くなつて四百年くらい経つて、「上座部仏教の言うことはおかしい。男性出家者が優位で、在家者や女性は低く見られ、かつお釈迦様が人間離れした特別の存在にされている。お釈迦様は人間を差別するためには仏教を説いたのだろうか」。そんな言なき言が、次第に一つの言

北伝仏教の発信地であつたガンダーラで、男性出家者中心主義の説一切有部にとつて不都合だとして削除されたからです。「女性も悟れる」としたお釈迦様の考へは画期的でしたが、インドの著しい男尊女卑の考へが、教団内にも浸透してきたことによるのでしよう。

男であるか女であるかではなく、人間としての振る舞いはどうなのか

—大乗の經典について教えてください。

植木氏／今回のテーマで申しますと、『維摩經』に面白い箇所があります。お釈迦様の弟子の一人であるシャーリップトラが、優れた智慧を持つ天女にやり込められた末に、こう言います。「そこまで智慧があるのに、なぜあなたは女の身体をしているのか」。それを聞いた天女は、「何年も女の身体の本質を探しているけれども、そんなものはありますせんでした」と答え、自分とシャーリップトラの身体を入れ替えてしまう。シャーリップトラは狼狽し、「穢れた女になってしまった」と慌てふためきます。すると天女はシャーリップトラをもとの男の身体に戻して、問います。「先ほどこの女の身体はどこにいったのですか」。シャーリップトラは「女ではないのに女になってしまったのだ」と答える。「そうでしょう。世の中の女性も皆、女でないのに女の身体をしている。お釈迦様は『一切は男にあらず、女にあらず』と仰いました」と天女は言う。「空」ということです。男であるか女であるか

ての振る舞いこそが重要だというのです。

—『法華經』はどのような内容なのでしょうか。

植木氏／『維摩經』が上座部の高慢な男性出家者を否定する内容だとすれば、『法華經』は、高慢な男性出家者も含めて、あらゆる人が成仏できるとして肯定する内容になっています。

『法華經』とは、「あらゆる人が尊い存在ですよ」と気づかせる經典

—『法華經』全体の思想について、「著書の中で「眞の自己」に目覚めよ」という教えを何度も強調されています。

植木氏／色んな仏典で、「無我」が強調されています。「無我」というと「我不是」というように捉えがちですが、『維摩經』を読んでもわかるように、「非我」なのです。我に非す。「何かが我だと思うな。どこかに我があると思うな」と言っているのです。我々はどこかに「我」を設定したいわけです。名利、あるいは財産などの形で。そうではなく、『法華經』はありのままの自己に目覚めなさいと言っています。

私の体験を話しましよう。多くの人



たちが人生の中で、自分に行き詰まりして、自己嫌悪に陥ったりすることがあります。私もそうでした。大学に入つて、自分が勉強をしてきたのは虚栄心のためだったということに気づかされました。自己嫌悪、自信喪失から鬱状態になりました。そんなとき『法華經』の長者窮子の譬えを読んで、ホツとするものがありました。主人公は貧しい男で、自分を卑下する心に囚われている。本当の父親に出会つたときも、恐れて逃げ出します。父親は男のために方便を使い、肥溜めの掃除から始めてだんだんと良い仕事につかせ、最終的には財産管理を任されるようになる。それでも自分を卑下する心は残つていて。父親は、そんな息子に「お前は私の息子だ」と言えるときのため、男の心を徐々に解きほぐしていく。臨終間際になつて、真実を伝え、男は自分の真実の姿に目覚めるわけです。『自分は下らない人間だ』と思つていたが、全ての財産が自分のものだつたということを知ります。そして、「無上宝聚不求自得」と口にしました。これは真の自己への目覚めの物語です。このように、『法華經』というのは、あらゆる人が尊い存在ですよ、と真の自己に気づかせる経典なのです。この貧しい男の姿が、私自身の姿と重なつて

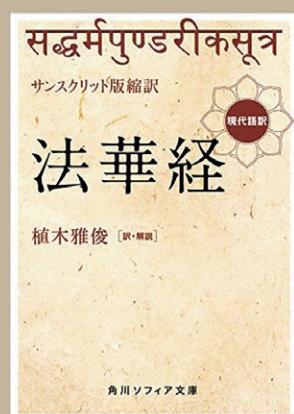
読めました。

「多様性」という考えに根拠を与える「薬草喻品」の譬え

—『法華經』の思想を現代で当てはめて考えると、どうなるでしょうか。

—最後に青年僧侶に一言、いただけるでしょうか。

植木氏／現在、「多様性」という観点から「ブラック・ライヴズ・マター」のような様々な人権問題がテーマになっています。「多様性」という考え方には拠を与えることが大事だと思います。男女の問題や、人種の問題——そこに普遍的視点を持ち込まない限り、差別はなくならないでしょう。『法華經』の薬草喻品に「千差万別の植物といえども、同一の大地に根差し、同一成分の雨に潤されている」という譬えがあります。千差万別とは多様性ということですね。ここには「差別相（差異。それぞれの違いということ）」と「平等相」の二つの側面を見ることがあります。「差別相」、つまり違いにとらわれると対立になつてしまします。違いは違ひとして、それを個性として認め合うためには、「平等相」に立たなくてはならない。「平等相」とは例えば、「人間」とか「命」とかということでしょう。



右はサンスクリット語『法華經』の縮訳版現代語訳。

左は『法華經』の内容をその社会的背景や場面設定の意図という点に着目して執筆している。

同じ「人間」であり、同じ「命」である。だから平等だ、ということです。薬草の譬えは、「差別相」による対立を超える「平等相」の重要性を教えてくれます。

れば、仏教は若い人たちから見放されてしまします」と言わされました。中村先生は、「漢訳だけを基にすると、勘違いが起こりかねません。サンスクリット原典のあるものは、必ず原典にも当たるように」と常々おっしゃっています。

植木氏／ある宗派の青年僧侶を対象とした講義で、その教団の布教の仕方とは違うことがサンスクリット語版『法華經』に書かれていて、あえて指摘したことがあります。終了後、担当者から、「これからも遠慮しないで指摘して下さい」とおっしゃって下さいました。サンスクリット原典から現代語訳した拙訳『法華經』も読んでいただければ幸いです。

聞き手・文／広報委員長 田ノ口太悟
撮影／広報委員 石原 順成

インタビューを終えて

お寺というと一般の方は「僧侶」をまず思い浮かべると思いますが、言うまでもなく、お寺は僧侶だけで運営されているわけではありません。

まず、僧侶の家族がいます。僧侶の家族たちはお寺に住んでいることが多く、僧侶と共にお寺を支えています。また、そのお寺の檀信徒がいます。檀信徒はお寺に住んでいませんが、頻繁にお寺に通い、物心両面でお寺を支えてくださっています。

これらの人びとは、お釈迦様の教えを実践しているという点で一体であると言えます。植木雅俊先生のお話を聞きしていく中で思ったのは、本来仏教徒として一体であるはずの人びとに「出家／在家」「男性／女性」という二元論を持ち込んだところから、様々な問題が生じているのでは、ということです。上座部仏教の「女性は悟りを得ることができない」という発想はその代表例でしょう。

「男性」「出家者」からの視点を疑問視してみる

「僧侶とジェンダー」を考えるからには、自分たちの歴史も学ばなくてはなりません。曹洞宗教団においては、「男性」であること、「出家者」であることが価値の中心になりました。たとえば戦前、女性僧侶が住職できるのは檀家数の少ないお寺に限られ、大抵の女性僧侶は近くの檀家数の多いお寺の檀務をさせてもらうことで生活してきました。いわゆる「尼寺」というものです。また、昭和21年まで、女性僧侶が嗣法することは許されませんでした。曹洞宗僧侶にとって、自己に伝わったお釈迦様

の法を次代に伝えることができないというのは、この上なく辛いことであつたのではないか。どうか。



5 ジェンダー平等を実現しよう



寺族（お寺に在住する寺籍簿に登録された者）についても同様です。そもそも、明治5年の太政官布告により僧侶が家庭を持つことを社会的に許されて以来、家庭を持つ僧侶が増えていくのに、曹洞宗教団として寺族をどのように位置づければ良いかが曖昧になってしまった。僧侶は「出家」しているが実際は家庭を持ち、その家族の支えに頼ってしまっている。それにも関わらず、住職が遷化するとその家族である寺族の立場は不安定になる。寺族の支えに感謝し、きちんと受け止める意識が必要となっている気がします。

私にしても、たとえばお寺の仕事を一緒に支えているはずの寺族女性に、忙しいときなど檀家さんの対応や法事・法要の準備を当たり前のように押し付けている自分に気づきます。そこにはどこか、「僧侶である自分が中心である」という増上慢の心があるようです。

今回の取材をするにあたって、知人の僧侶に「僧侶の世界におけるジェンダー」について様々な意見をお聞きしました。身近なテーマであるにも関わらず、人によって多様な捉え方があるのに驚きました。それぞれがまずは女性僧侶と寺族の歴史について良く学び、SDGsの理念「誰一人取り残さない社会の実現」、そしてジェンダーの平等の実現に向かって進んでいきましょう。

文／広報委員長 田ノ口太悟

基幹事業「過疎問題への取り組み」を通して

そうすることで自由で創造的な活動が可能となり、心豊かな社会の形成に寄与することができるのではないかと思っています。

令和元年5月、第23期の船出であつ

た定期総会で、「過疎問題は地方寺院に限った問題ではなく、大都市への檀信徒流出に伴う離郷檀信徒の受け皿など様々な問題を内包している」と原会長が所信表明で述べられたように、過疎問題は局所的な問題ではなく、全国規模の問題へと発展していきます。基幹事業のひとつとして実施いたしました「過疎問題に関する意識調査」においても、回答者の9割以上が現状に危機感を感じているという結果が得られ、私自身も危機感と漠然とした不安を抱える一人として各事業に取り組ませていただきました。

その中で大きな気づきとして得られたのが、想いを同じくする人々の存在です。先ほども述べたように、問題が全國規模となつていて、一人の力ではどうにもならない現実が見えてきました。全国曹洞宗青年会では各会議を開催するにあたり、会則を皆で唱和いたします。

全国曹洞宗青年会会則第1章第3条

『会の目的』

本会は、古教照心の示訓を旨に、自己の研鑽に努め、互いに乳水和合し、自由で創造的な活動を通じ、心豊かな社会の形成を目的とする。

青年僧侶一人ひとりが、故教照心の示訓を旨に、自己の研鑽に努め、至らない点は互いに乳水和合し助け合う。



基幹事業「過疎問題への取り組み」報告書

『過疎』と向き合う』と題しました連載も、今号の「第23期会長原知昭×次期会長山田俊哉 特別対談 第23期基幹事業を振り返って」をもつて最終回となります。今期のスローガンは「今を創ろう 明日を咲かそう」でした。今を懸命に創ってきた証として、基幹事業で実施いたしました4つの事業（①過疎問題に関する意識調査」「②過疎に関するスタディツア」「③広報誌『SOUSEI』連載」「④明日をひらく寺院創生講座」）を報告書にまとめ曹洞宗宗務庁へ提出し、今後、過疎問題に関して協力体制を整えていくというお話をいただきました。第23期から第24期へ、そしてさらなる未来へ。本報告書が明日を咲かす一助となりましたら嬉しく思います。

最期になりますが、基幹事業を推進するにあたり、多くの方々にご教示、ご協力を賜りました。ここに深く御礼を申し上げます。

文／過疎問題担当庶務 堀江紀宏

特集② 「過疎」と向き合う 最終回

第23期会長・原知昭×次期会長・山田俊哉 特別対談

「第23期基幹事業を振り返つて」



右：原知昭第23期会長 左：山田俊哉第24期会長

第23期全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では、基幹事業として過疎問題に関する事業を複数回にわたり展開してきました。

今号では、第23期会長原知昭師

と、令和3年度定期総会をもって第24期会長に就任する山田俊哉師とで、オンライン会議システム「Zoom」を通じて過疎に対する思いを語ります。

—第23期では、基幹事業として過疎問題に取り組んできました。その理由をお聞かせください。

原師 私が過疎問題に取り組もうと決めたのは、自分自身が過疎地域に暮らす人間であるという理由があります。それともう1つの理由として私が会長職に就任する前に、偶然お会いしたある老師と宗教者として過疎問題に取り組む大切さをお話しする機会があり、それが全曹青として過疎問題に取り組みたいと考える大きなきっかけとなりました。

第23期では、自分自身の足元に目を向けて、全体で共有できるよ

—過疎問題に取り組みたいという話を最初に聞いた時、どう思いましたか？

山田師 寺院の根幹にあたる基礎的な部分を見直そうというテーマは、非常に原会長らしいなど感じました。

過疎問題は寺院運営にも関わる重大な問題でもあります。私自身常々感じるところはありましたが、いざ「対策」といわれると、それこそ社会や宗門全体で取り組むべき難題に、全曹青として何ができるんだろうか、という不安もありました。

—過疎に関するスタディーツアーについて話してください。

原師 過疎に関するスタディーツアーが開催された年は、丁度私

うな事業をしていきたいという思いもあり、社会問題の1つでもあり私個人としては身近な問題でもある過疎問題に取り組むことを決意しました。

が所属するいざも曹洞宗青年会が中国管区大会の主幹を務める年でもありました。それに併せ全曹青主催の「禅文化学林」を併催するご縁をいたぐことにより、全国各地から多くの青年僧侶が集まるこの機会を利用して、島根県の実情を見ていただきたいという思いからこの事業を企画しました。地元ということもあり、ご協力いただいた御寺院様方の伽藍の規模や寺院の現状などはある程度は事前に把握していたのですが、三十余名の参加者たち全員が一様に自分たちが思っていた以上に驚愕する姿を見て、改めて自分たちが暮らす地域の過疎化が、自分たちの想像以上に深刻化していることに気づかされました。



今回のスタディーツアーの中でも、過疎問題は自分が困っているのか困っていないかによってその受けとめ方が大きく異なるように感じました。「自分は過疎地で生活している」と自覚していても、過疎の度合いは人によって大きく異なります。今回ご協力いただいたアンケートを見ても、それぞれの持つ価値観や考え方の違いというものが如実に表れる結果となりました。

山田師 私の出身地である秋田県でも、過疎化や高齢化など島根県と同じような問題を抱えています。しかし、実際に現地の状況を目の当たりにし、寺院の解散といつたより具体的なお話を耳にして非常に強いショックを受けました。

明日をひらく寺院創生講座
～過疎寺院も都市寺院も、ひとつひとつのお寺の可能性をひらく寺業計画を創ろう！

第5回：寺業計画書発表

令和2年11月26日・27日

お寺の未来

にも人が集まる機会を利用して開催を検討していただけたらと思います。

オンライン研修会「明日をひらく寺院創生講座」について

をオンライン上で行いたいと考
え、中央研修会の講師のお一人と
してお願ひしていた井出悦郎氏と
企画を検討していく中で、参加者
による「寺業計画書」の作成を最
終目標とした全5回の大規模なオ
ンライン研修会の実施が実現しま
した。

実際に研修会を行うにあたり、
実際に多くの方々が過疎化やコロナ
禍においても前向きに様々な活動
を実践していることに改めて強い
感銘を受けました。自分自身も何
かやらなければならないと思う一
方で、この気持ちを持つことすら
許されないほどに切迫し、困窮し
た寺院も数多くあるのだというこ
とに改めて気づかされました。今
後どのように支援していけばいい
のか。全曹青としても宗門として
も大きな課題となるでしょう。

山田師 過疎問題に関する漠然と
した危機感に今まで流されていた
だけなのだということを、全国的
な数値や状況を含めて理解できま
した。

特に思ったことが、過疎への取
り組みに関わらず、青年僧侶1人
1人の活躍というものが、今日ま
で見落とされていたのではないか
ということです。全曹青の広報に
しても、各加盟曹青会単位の活動
を取り上げる機会はありますが、
個々人の活動にまでスポットを当
てられることは非常に少なかつた
ように感じます。

オンライン研修会の中でも「実
際問題どのような取り組みをすれ
ばよいのか」という疑問が多く寄
せられました。今後そのことが全
曹青の活動の1つの柱になるので
はないかと考えております。



—基幹事業として得られた成果について

原師 全曹青として過疎問題を取
り扱ったという時点で1つの成果
になつたように感じます。会の目

的の中にも「現代の社会問題に対
する研究と対応」とあります。我々

も出家した身ではありますが、一
市民として世俗の中で暮らせば過
疎に関わる諸問題は自分自身にも
降りかかりますし、宗教法人の維
持管理にも大きな影響が出ます。

山田師 コロナ禍において現代社
会には大きなパラダイムシフト
(従来の認識や価値観が劇的に変
化すること)が生じました。それ
は宗教界においても例外ではありません。

行政や宗門だけの問題ではないと
いうことを青年僧侶の段階で把握
できるような機会を設けることが
できたことは非常に良かったと考
えてています。

過疎地で人がいない。離郷檀信
徒が多い。そういう中でどう
やって寺院を護持していくかと
いう不安が今までありましたが、
近年SDGs(持続可能な開発

今回活用したオンラインツールの
一般化によって解決の糸口が見え
てきたように感じます。従来とは
異なるコミュニケーションツール
を用いることによって、檀家離れ
を食い止める一助となるのではないか
でしょうか。そういった意味ではな
いでしょうか。そういうものは大変な状
況をもたらす一方で、オンライン
という新たな手法を見出す1つの
きっかけにもなつたように感じま
す。

目標)は社会全体のキーワードの一つとなっています。具体的で実効性の高い対策や行動が問われる段階に社会全体が突入したようにも感じます。新たな僧侶の在り方や新たな寺院の在り方が今後続々と発見されることでしょう。その1つ1つが過疎問題の対策に直結していくのではないかと考えています。

—最後に来期への抱負をお願いします。

原師 過疎地寺院振興対策室の方

ともお話をさせて頂き、今後協力して過疎問題に取り組んでいこうと いうお言葉を頂戴できることは全曹青としても非常にありがたいことだと思います。各加盟曹青会とも連携して、それぞれの得意な分野を活かし、弱い部分は共に支え合いかながら今後もこの問題に取り組んでいければと考えています。

関する情報を全体で共有し、発信できればと考えております。各地の青年僧侶の取り組みについても情報を共有し、お互いに刺激し高めあうといったことをやっていきたいとも考えております。

原師 最近耳にしたお話の中で、ある年齢を超えると同じ取り組みでも意識の向き方が全く異なってくるというお話を耳にしました。そう考へると「青年僧侶」という言葉は力強く前へ前へと進んでいく1つのエネルギーを表す言葉なんだと思います。

コロナ禍の中で会長職を務めさせていただきましたが、今後も過疎問題という難題に全曹青として取り組んでいくと共に、来る創立50周年も視野に入れて会を運営していくただくことを期待します。

文／過疎問題担当庶務 中野孝海

山田師 来期では全曹青としての

スケールメリットを活かし、各加

盟曹青会とも連携しながら過疎に

曹洞宗宗務庁「過疎地寺院振興対策室」より

曹洞宗宗務庁では、本宗における過疎問題対策を積極的に推進するため、平成31年4月に「過疎地域等における宗門寺院の問題に関する対策準備室」(以下、準備室)が設置されました。準備室では、過疎地域の現地視察や、他教団の活動の情報収集、官公庁の関連資料収集など、過疎地の実態把握を行い、過疎問題に対する専門部署の立ち上げに向けて活動して参りました。

その後、1年間の準備期間を経て、令和2年4月1日より、宗務庁伝道部内に「過疎地寺院振興対策室」(以下、振興対策室)を立ち上げました。振興対策室では、準備室に引き続き、過疎地の実状把握や分析を行い、また、情報発信の一環として、講演会の開催や曹洞宗報での連載を開始し、本宗の過疎問題に対する意識向上に努めております。

今後は、全国曹洞宗青年会の皆さまのご協力をいただきながら、教団全体で過疎問題へ取り組み、持続可能な寺院の在り方を模索し、対策の立案と実行に向けて推進して参ります。

なお、過疎問題に関するご意見、ご要望などについては、振興対策室までご連絡ください。

〔過疎地寺院振興対策室 連絡先〕

住所 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁 伝道部内

TEL 03-3454-5255 FAX 03-3454-7699 MAIL kasotaisaku@sotozen.jp



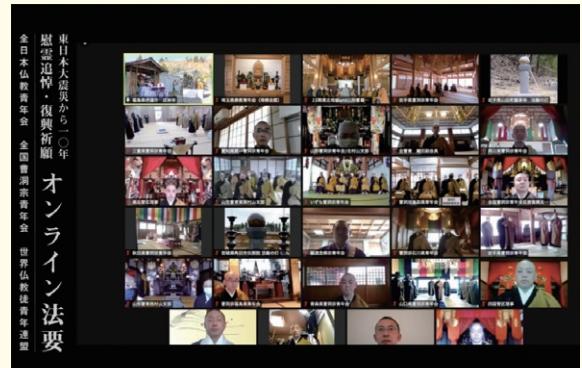
東日本大震災慰靈復興祈願オンライン法要



法要に臨む三師

令和3年3月10日、福島県成林寺の納経塔前で、全曹青・全日本佛教青年会（以下、全日仏青）・世界佛教徒青年連盟（以下、WFBY）共催による東日本大震災慰靈追悼・復興祈願法事が厳修されました。

今年はコロナ感染拡大防止のため、現地での法要は限られた人数で勤め、ビデオ会議システム「ZOOM」を通じて全国各地を結んでのオンライン法要を開催いたしました。また、この様子は全曹青公式YouTube



オンラインで各地を繋ぐ

14時30分より法要を開始し、チャンネルで一般に配信されました。

最初に全曹青会長の原知昭師が次のようにご挨拶をいたしました。「発災より10年を数えます。一口に10年と言えど、それぞれの方によつて頭に浮かぶ想いは様々かと存じます。この10年は、失われた命、生きとし生きる全ての命に耳を傾け向き合つてきました。この法事が皆様にとつて明日へと踏み出す大きな力となり、未来へ大きな大輪の花を咲かす一助となるよう願っております」。

その後、時刻が14時46分にな

るのに合わせて黙祷が捧げられました。

法要の導師は原知昭師、全日仏青理事長・谷晃仁師、WFBY会長・村山博雅師の3名で務めました。法要の途中では、写経用紙奉納が行われました。この写経用紙は、震災の慰靈追悼・復興祈願の想いを込めて全国で書かれ、送られてきたものです。

法要の後には、谷晃仁師と村山博雅師からご挨拶がありました。谷師は、「全国各地での災害が起きた後、様々な人が現地に足を運び、手を取り合い、支え合つて日本の復興に現在も努めているところだと思います。これから災害が起きたとしても、同じように復興に向けて手を取り合い支え合っていきたいのです」とご挨拶されました。

村山博雅師からは、「私も10年前に深いご縁を頂戴いたしました。ボランティアの1人としてこの東北の地で多くの月日を過ごしました。その時の想いは今も私と共にあり、その時の様々な経験が今の私を作り上げています。決して忘れてはいけない記憶です。これからもずっと応援いたしたいと思います」とご挨拶がありました。

法要の様子は全曹青公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。今回はこのような形となりましたが、来年は皆が現地に集えるよう祈つております。

文／広報委員長　田ノ口太悟
全曹青 YouTube
チャンネル
「オンライン法要」



写経奉納

めているところだと思います。

これから災害が起きたとしても、同じように復興に向けて手を取り合い支え合っていきたいのです」とご挨拶されました。

村山博雅師からは、「私も10年前に深いご縁を頂戴いたしました。ボランティアの1人としてこの東北の地で多くの月日を過ごしました。その時の想いは今も私と共にあり、その時の様々な経験が今の私を作り上げています。決して忘れてはいけない記憶です。これからもずっと応援いたしたいと思います」とご挨拶がありました。

災害復興支援

news

二



稻葉圭信氏

オンライン研修会 「災害に対しての これからを考える」

令和3年1月15日、全国曹洞宗青年会災害復興支援部主催オンライン研修会「災害に対してのこれからを考える」が開催されました。

令和3年1月15日、全国曹洞宗青年会災害復興支援部主催オンライン研修会「災害に対してのこれからを考える」が開催されました。昨今頻発している自然災害に對してコロナ禍での支援の方法に頭を抱える中、講師先生のお話を元に支援部が被災地域にどのように中間後方支援が出来るのかを考えることができました。

県外からの支援が難しい現状で、災害に備えてそれぞれの地域での支援活動が行えるよう、多くの僧侶の理解と育成が地域への一助になると感じました。

これからも各加盟曹青や関係諸団体との連携を密にし、支援を行って行きたいと思います。

此度の研修会には、宗門内外から様々な団体の皆様が参加して下さいました。

参加していただいた皆様へ感謝申し上げます。

原田恵一
文／災害復興支援部事務局長

講師に大阪大学大学院教授の稻場圭信氏をお招きし、「地域に生きる寺院の災害時連携」をテーマにご講演いただきました。

昨今頻発している自然災害に對してコロナ禍での支援の方法に頭を抱える中、講師先生のお

話を元に支援部が被災地域にどのように中間後方支援が出来るのかを考えることができます。

県外からの支援が難しい現状で、災害に備えてそれぞれの地域での支援活動が行えるよう、多くの僧侶の理解と育成が地域への一助になると感じました。

これからも各加盟曹青や関係諸団体との連携を密にし、支援を行って行きたいと思います。

此度の研修会には、宗門内外から様々な団体の皆様が参加して下さいました。

参加していただいた皆様へ感謝申し上げます。

文／災害復興支援部事務局長

傾聴研修会「震災と自死」



ディスカッション

令和3年2月19日、一般財團法人「観世ふおん電話相談」主催で社会福祉法人「福島いのちの電話」業務執行理事の三瓶弘次先生が講師を務められ、オンライン研修が行われました。

福島県内に於ける震災関連死は他の被災県に比べ、圧倒的に多いことは知っていました。特

に意義があると思います。「法話」が送信であるならば、「傾聴」は受信です。お寺で生活していれば、匿名での相談や対面しての相談もあります。私たちの言

動1つで「もっと傷つけるのではないか」という不安はあります。このようないい修会を通して「傾聴」の心構えを学び、相談者の心を少しでも楽にできるよう日々研鑽したいと思いま

す。

文／災害復興支援部
アドバイザー
城市泰紀

に宗教者として、「自死」の問題は避けては通れない問題だと思います。様々な団体が電話やチャット、メール等で相談を受け付けていますが、僧侶が電話相談を行うことについては非常に意義があります。「法話」が送信であるならば、「傾聴」

は受信です。お寺で生活していれば、匿名での相談や対面しての相談もあります。私たちの言

動1つで「もっと傷つけるのではないか」という不安はあります。このようないい修会を通して「傾聴」の心構えを学び、相談者の心を少しでも楽にできるよう日々研鑽したいと思いま



全曹青教化委員長 森井 宗淳
(いざも曹洞宗青年会より参加)
『ASMR 精進料理』動画の制作を
全曹青といざも曹青の協働として行う。

全曹青・いざも曹青協働事業

YouTube 動画

「ASMR 精進料理」紹介

第23期全曹青では、いざも曹洞宗青年会（以下、いざも曹青）より全曹青会長が輩出されるという有難い機縁をいただきました。私自身もいざも曹青より出向させていただいております。その中で、会長輩出青年会としていざも曹青は第23期全曹青をどう盛り上げていくか、また私自身、全曹青出向者としての体験をどう地元であるいざも曹青に持ち帰れるかを考えました。

令和元年度には、中国曹洞宗青年会いざも大会を『食縁』と題した研修大会として開催いたしました。禅文化学林と併催することで、全国の方と共に地元いざも曹青一同一丸となり取り組みました。また、この際、過疎地域をめぐる「過疎に関するスタディーツアー」を行い、第23期基幹事業「過疎問題への取り組み」について認識を深めました。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動に苦慮する一年となりました。「人が集まること、さらには人と会うことさえ憚られ、普通に生活するのにも困る中でいったい何ができるのか」を考えさせられることになりました。

いろいろ悩む中で出てきたのが、現在、外に出られない時だからこそ、おうち時間を使う方々に禅の教えが伝わるものを作成するべきなのではないかということでした。そこで企画したものがYouTube動画『ASMR 精進料理』です。「ASMR」とは、正式には「聴覚や視覚への刺激によって感じる心地よい感覚」のことですが、ここでは動画の精細さやリアルな音声という意味にお考えください。

「口口ナ禍で制作することは容易ではありませんでしたが、全曹青と地元いざも曹青の双方にお声かけし、合作として作り上げました。

精進料理になじみのない方にも、精進料理の基本を知つていただくべく、精進出汁の作り方などを4本の基本編として夏前に投稿いたしました。また、他の精進料理動画と棲み分けするべく、食材の命を眼耳両方から感じていただけるよう、高感度マイクを使用して動画を制作いたしました。

第一弾が大変好評だったため、年末には第2弾を制作いたしました。この第2弾制作に当たっては、いざも曹青内で第一弾の反省点なども踏まえ議論を重ねました。高感度マイクの使用は継続し、内容は法事でお供えされる仏膳の作り方としました。特に、普段調理されることのない方が実際に作れるように分量は丁寧に記しました。そして春夏秋冬の季節に分けることにより、旬の食材を使うことを意識いたしました。

また、調理者はいざも曹青歴代会長と第23期全曹青会長が務め、食に関



令和元年中曹青いざも大会と共に行われた
「過疎に関するスタディーツアー」（島根県・松音寺）

する想いを各動画に載せました。

継続して『ASMR 精進料理』を制作してまいりましたが、誰もが撮影の仕方もわからず機材も全くないところから始めましたので、本当に完成するのか不安ばかりでした。しかしながら、多くの方のご協力を得ながら、撮影だけでなく編集校正の段階でも厳しい意見が出るなど、しっかりとしたものを作り出そうという一人一人の思いが動画を完成まで突き進めたのだと思います。

今回の撮影では、一つの軸を共通認識として持つていました。YouTubeでは再生回数がとかく気にされるものではあります、この動画はそこに焦点を当てていていません。そうではなく、檀信徒様に精進料理やお供えをする気持ちを説明する際に視聴を勧められるような「教化資料」としての部分に焦点を絞ろうということでした。この動画を視聴することで、日本人が忘れかけていた食事の大切さや命のあり方を見つめなおし、お供えをする気持ちの大しさに気づかれるのではないかと思っています。少しでも多くの方々にその認識が広がれば幸いです。

全曹青の活動に対しても、様々なご意見をいただきながら、出向者として委員長として何ができるのか、何をするべきか悩みながらの歩みでしたが、以前青年会活動をされておられた老師が「青年会活動は失敗することに意味がある」とおっしゃっておられました。この言葉を私は心の拠り所として活動をさせていただいております。この2年間、いざも曹青の一員としても全曹青の一員としても正直なところ正しことができるのかはわかりません。しかししながら、今回の動画が地域に根付く県曹青と全曹青が一緒に作り上げられたことは一つの成果であると思っております。

地元曹青から参加させていただいているからこそ、地域に根付いた活動が大事と思い、その活動が輪となり、いろいろな垣根を越えて広く大きくなっていくことは決してマイナスにはならないと信じております。

『ASMR 精進料理』動画制作にご協力をい

ただきました皆様、本当にありがとうございました。コロナ禍が一刻も早く落ち着き、実際にお会いしての活動ができますように。

『ASMR 精進料理』
動画再生リスト



全曹青会長・原知昭師（右）





追悼文「河村康仁宗師の遷化に思う」

が、師が全曹青出向当初にお母様を亡くされたことは、当記事実現には多分に影響のあったことと思う。その後も、全国各地のご寺族方から広報委員会へ寄せられるお手紙一通一通に、丁寧にそして優しくして返信をしたためてはいた姿を忘ることができない。

河村師との出会いは、今から18年前の全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）第15期広報委員会への出向であった。その時、師は駒澤大学大学院博士課程に学んでおり、才氣煥發ながら人懐っこい笑顔の持ち主の印象を抱いた。

師の全曹青活動は、広報委員会委員・副委員長・委員長を経て副会長

までの続していくが、広報委員会での業績としては、師自身が、大本山永平寺別院長谷寺専門僧堂へ安居中の一室に集合し、食事も取らずに翌朝まで喧々諤々と議論してそのまま帰山するというスタイルだったが、師をはじめとした各委員方との会議は非常に充実した時間でもあった。

編集会議以外でも、私は師と親しくさせていただき、『正法眼藏』をはじめとした祖録について、その内容や読み方などを沢山教えていただいた。時には、お互の家族・兄弟の

これまで話が及び、私がようよう訊ねたからであるが、師はご家族様のことを少し照れくさそうに話していくことが、昨日の事のように思い返される。

他にも、曹洞宗総合研究センター

宗学部門での業績や、全日本仏教青年会全国大会事務局長など、その活躍には枚挙に暇がない程であつた

が、いま振り返ってみると、師は随処で能力を發揮すると同時に、何かうに思えてならない。

縁があり、船橋市夏見の長福寺様へ随身することになつて、実父である養福寺（師の出身地札幌市）・河

とでもある」との言葉を頂戴していることを、第19期会長の松岡広也師から後に知られた。船橋に移つてからも、様々に相談できる親切な先輩や、最後までその体調を心配し病院に行くようにと気にかけてくれた後輩など、師の周りには多くの仲間が居た。時には率直な物言いをすることもあり議論が活発になることもあつたが、結局出会つた人間は、皆その人柄に好意を寄せるほどチャーミングであつた。

本葬儀で、長兄である康秀老師は「生縁は決して長いものではなかつたが、仏縁には恵まれたのではない

か」とご挨拶された。糺余曲折を経ながらも、曹洞宗学へ身を投じ、宮崎禪師様との仏縁を頂戴できた康仁宗師の生涯を慰労されたものと拝察し落涙を抑えきれなかつた。

あらためて、その求道心に敬意を表し、師との出会いに感謝を捧げる。世寿四十六才。

文／全曹青第18期会長 久間泰弘

合掌

広報委員会からのごあいさつ



全曹青 Real VOICE



委員長 田ノ口太悟

福岡県曹洞宗青年会より参加しております。今期は広報委員長として、委員の皆様に支えていただき何とか2年間の任期を務めることができました。前期から合わせて4年間を広報として過ごしましたが、様々な方と出会い、様々な体験をさせていただきましたことに感謝しかありません。ありがとうございました。ありがとうございました。



副委員長 菅 悠生

広島県曹洞宗青年会より参加しております。前期に引き続き、広報委員会を経験させていただきました。広報という特性もあり、今期は過疎問題の現状やコロナウイルスへの対応等、社会の変化というものに触れる機会を多くいただきました。学んだ事を活かし、僧侶に求められるものを見失うことのないよう、今後の活動に取り組もうと思います。ありがとうございました。



委員 秋元憲裕

この度、茨城県曹洞宗青年会から参加させていただいております秋元憲裕と申します。全曹青には初めての参加で右も左も分からぬ状態でしたが、お陰様で2年間とても貴重な経験をさせていただきました。この場を借りて関わった全ての方々に感謝申しあげます。ここで得た経験を糧に日々精進してまいりたいと思います。



委員 石原顯成

曹洞宗長野県第二宗務所青年会から参加させていただきました。広報委員の活動を通して多くの方々と出会い、お話を聞く事ができました。この様な貴重な体験とさせていただいたことに感謝を申し上げると共に、今回得た経験を活かし地元曹青会へと還元していきたいと思いまます。2年間ありがとうございました。



委員 高柳龍哉

秋田県曹洞宗青年会より参加しております。広報委員として広報誌『SOUSEI』発行を通して寺院の過疎問題や布教活動について多く学ばせていただきました。私の不得意な執筆活動でしたが、広報委員の仲間や取材でお世話になった多くの方々のおかげで楽しく2年間の任期を務めることができました。感謝しております。



委員 深堀泰寛

曹洞宗山形県第三宗務所青年会から参加させていただきました。

広報委員会の活動を通していただいた様々な方々との出会いに感謝しております。この貴重な経験を今後の活動にも活かしていきたいと思います。

2年間、ありがとうございました。



委員 松崎清文

曹洞宗北海道第一宗務所青年会より参加させていただいております、松崎清文と申します。全曹青という青年僧侶だからできる活動を通じて、新しい発見や自分に足りないことを学ばせていただきました。その中でも『SOUSEI』で連載を担当させていただけたことは大変貴重な経験となりました。これからも初心を忘れずに頑張ります。



委員 米澤高志

京都曹洞宗青年会より参加しております米澤高志と申します。

広報誌『SOUSEI』の取材やHP、SNSの更新等、広報委員会に入り経験させていただいたことは、全曹青に参加しなければ経験できなかつたことばかりです。コロナ禍での取材は特に学びが多くありました。ご法縁に感謝申し上げます。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆福島県
19 常円寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
121 長泉寺 様
156 大龍寺 様
226 常隆寺 様
267 東禪寺 様
401 常樂寺 様
461 正法寺 様

◆岩手県
7 永祥院 様
20 大泉院 様
32 吉祥寺 様
52 福蔵寺 様
54 龍岩寺 様
186 大光寺 様
290 長泉寺 様

◆山形県2
344 蔵高院 様
◆山形県3
634 乗慶寺 様
641 宝泉寺 様
◆秋田県
18 乗福寺 様
76 藏堅寺 様
74 浮木寺 様
100 澄月寺 様
105 東昌寺 様
127 東伝寺 様
183 大乘寺 様
189 乘照寺 様
179 長泉寺 様
258 凤来院 様
265 倫勝寺 様
321 鏡得寺 様
川村一途 様

◆北海道1
7 宝琳寺 様
96 観音寺 様
350 来広寺 様
456 大昌寺 様
468 養福寺 様
488 清泉寺 様
◆北海道3
217 法龍寺 様

◆山梨県
57 宗禪寺 様
◆島根県2
5 地福寺 様
◆宮城県
314 満福寺 様

インターネット
受付分

ボランティア基金感謝録

2021年1月1日～2021年3月31日取扱い分

愛媛 興雲寺
福島 曹洞宗福島県青年会カレンダー委員会
山形 朝日町商工会女性部
北海道 第2宗務所第5教区青年会 一心会

H1法話グランプリ実行委員会事務局よりのご案内
「H1 法話グランプリ2021～宗派を超えた僧侶たちによる法話共演～」選考会出場僧侶募集のご案内

このたび、2019年6月に真言宗須磨寺で開催され大好評を得ました超宗派の僧侶による法話の祭典、H1法話グランプリ・エピソードZEROに引き続き、「H1法話グランプリ2021」として2021年10月30日（土）に奈良県のホール（1,500人収容）で開催するべく、現在計画を進めています。つきましては、出場希望僧侶の選考会への募集をご案内いたします。全日仏青も後援として参加されています。

詳細につきましては、右記QRコードをご覧ください。



贊助費浄納御芳名簿

2021年1月1日～2021年3月31日取扱い分

◆東京都	◆静岡県1	◆岐阜県	◆山口県	◆宮崎県
18 大泉寺 様	7 元長寺 様	162 清楽寺 様	25 弘済寺 様	12 台雲寺 様
171 高岩寺 様	26 宝珠院 様	167 正宗寺 様	190 亨徳寺 様	59 明星寺 様
309 天寧寺 様	34 洞慶院 様			
311 妙光院 様	50 盤龍寺 様	◆三重県1	◆鳥取県	◆鹿児島県
	127 楠巖院 様	7 海藏寺 様	146 妙樂寺 様	1 福昌寺 様
◆神奈川県2	159 玄清寺 様	166 陽光寺 様	◆島根県1	◆長野県1
14 傳心寺 様	388 林叟院 様	246 寶泉院 様	332 興源寺 様	57 長秀院 様
15 陽光院 様	464 正泉寺 様	276 地藏院 様		65 柳原寺 様
21 東照寺 様	495 普門院 様	291 林昌寺 様	◆島根県2	71 苔翁寺 様
	552 貞善院 様	305 傳法院 様	43 福正寺 様	86 圓福寺 様
◆埼玉県2		316 劍光寺 様	60 桐岳寺 様	147 德應院 様
237 吉祥院 様	◆静岡県2		63 龍覺寺 様	227 岩松院 様
331 曹源寺 様	228 耕月寺 様	◆滋賀県	70 完全寺 様	243 廣德寺 様
	346 東大寺 様	197 寶光寺 様	157 慶用寺 様	322 守芳院 様
◆群馬県	363 觀音寺 様	◆京都府	187 養善寺 様	◆長野県2
97 元景寺 様	368 曹洞院 様	91 福泉寺 様		405 水月院 様
166 光性寺 様		236 善光寺 様	◆島根県	456 明音寺 様
194 善宗寺 様	◆静岡県3	367 福昌寺 様	いざも曹洞宗青年会 様	491 龍勝寺 様
233 明言寺 様	608 養勝寺 様	389 萬福寺 様	◆高知県	557 広正寺 様
311 泉通寺 様	832 善勝寺 様	1225 光明寺 様	24 報恩寺 様	566 広明寺 様
◆栃木県		◆大阪府	36 香林寺 様	◆福井県
51 豊柄院 様	◆静岡県4	69 永興寺 様	146 興雲寺 様	47 瑞祥寺 様
93 乾徳寺 様	1065 高林寺 様	88 正俊寺 様	164 城慶寺 様	291 福聚寺 様
	1106 大嚴寺 様	98 吉祥院 様	◆福岡県	◆富山県
◆茨城県	◆愛知県1	◆兵庫県1	5 妙徳寺 様	206 慈眼寺 様
76 雲集寺 様	7 全香寺 様	42 定星寺 様	28 桂木寺 様	◆新潟県1
166 東光寺 様	55 長全寺 様	287 向榮寺 様		318 泉上寺 様
182 龍心寺 様	101 成福寺 様	368 摠持院 様	◆大分県	350 定光寺 様
197 長龍寺 様	135 光明寺 様	270 臨川寺 様	87 正福寺 様	358 圓光寺 様
◆千葉県	144 白毫寺 様	◆兵庫県2	134 長安寺 様	393 曹源寺 様
2 宗胤寺 様	172 前熊寺 様	154 鷺住寺 様	◆長崎県1	◆新潟県4
7 満藏寺 様	313 長松寺 様	170 圓通寺 様	23 智性院 様	38 興泉寺 様
22 廣壽寺 様	342 常樂寺 様	228 豊樂寺 様	42 西方寺 様	69 永明寺 様
29 慶林寺 様	605 天徳寺 様	270 臨川寺 様	62 慈光寺 様	217 諸善寺 様
48 観音寺 様	625 宝積寺 様		78 宝泉寺 様	264 海天寺 様
133 永昌寺 様	635 永澤寺 様	◆岡山県	101 南明寺 様	749 蓬林寺 様
315 雲龍寺 様	1119 松月寺 様	3 長川寺 様	◆長崎県3	814 地藏院 様
◆山梨県	◆愛知県2	◆広島県	◆長崎県2	
162 法久寺 様	684 花井寺 様	46 双照院 様	78 宝泉寺 様	
212 慈觀寺 様	896 嚴王寺 様	86 西金寺 様		
507 滿福寺 様		93 賢忠寺 様	◆熊本県2	
	◆愛知県3	115 醫光寺 様	133 少林寺 様	
	411 福田寺 様		135 凰林寺 様	78 地藏院 様
	431 報恩寺 様			88 明徳寺 様
	557 楠巖寺 様			122 國照寺 様
	1106 寶鏡寺 様			

大本山總持寺開創700周年記念事業延期のお知らせ

令和3年4月3日・4日に開催を予定しておりました、全曹青が担当する大本山總持寺開創700周年記念事業ですが、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため延期することが決定いたしました。延期日時は令和3年9月11日・12日頃となります。

全曹青としましては、この決定をしっかりと受け止め、9月に向けて企画を更にブラッシュアップしていく所存です。この事業は来期の開催となります。しっかりと、スローガン『今を創ろう 明日を咲かそう』にあるように、「明日を咲かせるために、今を創る」時間として準備を進めてまいります。

今後の詳細については全曹青公式HP『般若』や全曹青Facebookページで告知いたしますのでよろしくお願ひいたします。

文／副会長 宮本覚道

青年僧侶の映画レビュー

この映画は息子ウィルが仲違いをしていた父エドワードが病に倒れたのを聞き、そのことをきっかけにウィルは3年ぶりに実家を訪れます。エドワードは自分の過去の物語を小さい頃からウィルに聞かせていました。しかし、奇想天外な内容であるため成長するにつれてウィルはウソの話をしていると疑念を抱くようになります。それが真実かを確かめるためにエドワードの物語の地を訪れています。

映画のように話というのは事実をそのまま話すより、少し誇張した方が面白い話として相手の興味も湧くし深く記憶に残ることがあります。それは自己表現であり、相手を楽しませることになります。大切なことを知るきっかけにもなります。人以外の山や花といった自然と会話をすることは世間の常識だけで考えると見えない。けれど四季の彩りとして私たちに語りかけていると解釈もできます。決して人の言葉だけが会話ではないと思います。私の身近にも、人に限らずに語りかけている万物の声を聴きなさいと言っていた大和尚さまがいました。こうして私たち一人一人の人生という物語も脈々と語り継がれていくのだと思います。

今号で連載は最後となりますが物語と同様に、今期の青年僧侶が咲かせた成果が来期へも受け継がれ、これからも益々咲き誇ることを願っております。お読みいただきありがとうございました。

担当／広報委員 松崎 清文

表紙の話

第23期スローガン「今を創ろう 明日を咲かそう」に今一度立ち返りました。写真に写る明日への道は、平坦な直線ではありません。しかし積み重ねた今の努力が、満開の花となり未来を明るく色付けます。

撮影者：広報副委員長 菅悠生 撮影地：広島県三原市



『BIG FISH』

2003年／アメリカ